

Title	ごあいさつ
Author(s)	川勝, 傳
Citation	癌と人. 7 P.1-P.1
Issue Date	1980-03-01
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/24170
DOI	
rights	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

ご あ い さ つ

理事長 川 勝 傳*

皆さまには、益々ご清祥のこととおよろこび申し上げます。

平素は、財団法人大阪癌研究会に対しまして格段のご協力をたまわり厚くお礼申し上げます。

ガンによる国民の死亡は少しも衰えず、とくに働き盛りの成人層（30才から65才）では死因の第1位を占め、このことは、社会的にも、家庭的にも、その損失はまことに大きいものでありましてガン征圧はいまや国民の悲願であると申さねばなりません。

また、これからは、人類が経験したことのない高令化社会となり、このような長寿社会で健康を維持していくためには医者は何人いても足りません。国民一人一人が早くから医療従事者となった気持で自らの健康管理にご注意され積極的に検診を受けるようにしていただきたいものと念じております。

財団法人大阪癌研究会も設立当初から一貫してガン撲滅のための事業目標をかかげて、ガンに関する研究機関への学術研究奨励助成およびガンの検診普及活動等その目的達成に地道な歩みを続けております。

ガンの早期発見、早期治療が唯一の予防手段であります現在、財団法人大阪癌研究会はガン征圧の悲願からその社会的使命を全ういたしたく、乳ガン、胃ガン、直腸ガンなどの集団検診の普及活動を積極的に展開しております。とくに乳ガン、直腸ガンの検診を受けられる方々が年々増え受診者から、この活動について、高く評価をいただいております。

これらの検診活動をさらにおし進めるため財団法人大阪癌研究会は一層の検診活動の充実をめざし、高血圧、動脈硬化、ガンなどの老人病といっても進行しないうちに発見するような早期診断システムを早急に確立する整備計画をたてておりますが、これを実施するためには多額の費用を要し、残念ながら財団法人大阪癌研究会の資金では不十分で苦慮いたしております。

そこで、本年度は経済界をはじめ広く一般の皆さまからのご援助をお願いすることになりました。つきましては現下内外の経済情勢は極めて厳しいものでございますが、なにとぞ財団法人大阪癌研究会の事業につきまして温いご理解を賜わり格別のご支援をお願い申し上げます。

* 南海電気鉄道株式会社代表取締役社長